

2 指導の重点

(1) 各教科、道徳科、総合的な学習の時間、特別活動

ア 各教科

- ①「主体的・対話的で深い学び」のある授業実践を目指し、各教科において習得すべき「知識・技能」を明確にし、生徒が体得を伴う理解が出来るよう、「OKJ＝教えて考えさせる」指導方法の研究・実践に取り組む。
- ②生徒が深い理解を伴った習得が出来るよう、毎時間の授業で、目標の提示と教師の説明、理解確認、協働的な課題解決、理解状態の自己診断(振り返り)を確実に行う。
- ③生徒に「わかった」「できた」を実感させるとともに、教科固有の魅力や面白さに触れさせることによって、授業好き・教科好きな生徒を育成する。
- ④各教科、特別活動、総合的な学習の時間等との教科横断的な学習や系統性を生かした体験・経験を重視した学習を推進し教科指導の質の向上を図るとともに、認知・非認知能力をバランスよく育む。
- ⑤全教育活動においてICT機器の効果的な活用方法を模索し続ける。また、特別な配慮を要する生徒や不登校生徒等への個別学習における効果的な活用を推進していく。
- ⑥教師力を向上させ、生徒が安全・安心し、落ち着いた状態で学ぶための授業規律を徹底させるとともに、清潔で居心地の良い学習環境づくりを行う。
- ⑦家庭科では栄養士とのチームティーチングにより食育の授業を実施し、心身の健康を図るとともに、マナー等の社会性や食に対する感謝の心を育てる。
- ⑧保健体育では、救急救命講習会やがん教育の授業を関係機関と連携して実施し、安全教育・健康教育の充実を図るとともに全国体力テストの結果を分析し体力の向上を図る。

イ 道徳科

- ①道徳教育の要となる道徳科の授業において、各学年の年間指導計画に沿って適切に実施し、生徒の発達段階や実態に応じた授業を展開する。
- ②「考え、議論する」道徳の授業、生徒の内面に迫る授業を通して、道徳的心情を豊かにするとともに、道徳的判断力・道徳的实践力を育てる。

ウ 総合的な学習の時間

- ①意図的、系統的で体験・経験を重視した活動を通し、自ら課題を発見し探究したり協働したりすることを通して、認知能力・非認知能力のバランスよい育成を図る。
- ②学校図書館やインターネットを効果的に活用し、非認知能力(情報収集・活用力)の伸長を図るとともに、「図書館を使った調べる学習コンクール」への計画的な取組を通して読書好きな生徒を育てる。

エ 特別活動

- ①運動会や合唱コンクールにおいて、生徒の主体的な取組を引き出し、望ましい人間関係を形成しながら、集団への所属感・連帯感を深める。
- ②生徒会・委員会活動(部活動)において、異年齢生徒の協働を通して、清潔で居心地の良い学校づくりを進める取組や自己決定の場を創出し、生徒の主体性を育てる。